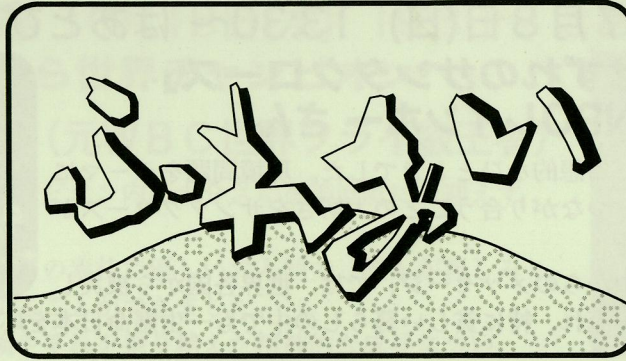


いろんな人と人とのつながり、  
ふれあいを美浜のMと波で  
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

## 第49号

発行:平成24年12月21日  
(年3回発行)

編集:人権協広報調査部会  
連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-6709

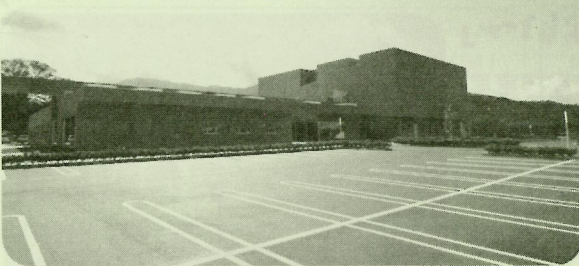
FAX 32-1222

E-mail:jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

# みはまナビフェス 人権協コーナー

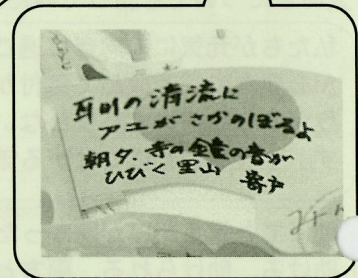
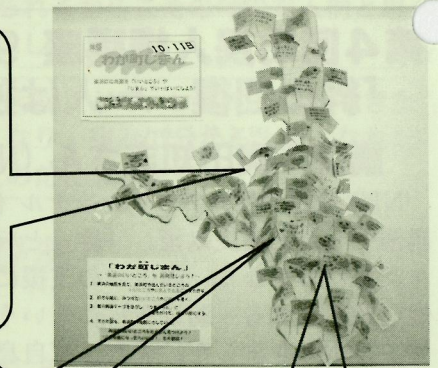
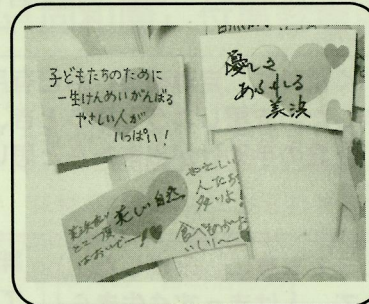
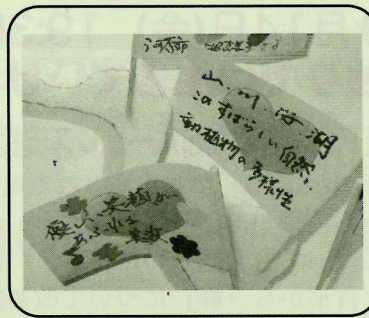
## わが町じまん ~「美浜のいいところ」を再発見しよう!~

美浜町生涯学習センターなびあす



11月3日に竣工したばかりの美浜町生涯学習センターなびあすで、11月10、11日に「みはまナビフェス」(旧文化祭+産業祭)が行われました。

今年も「人権協コーナー」を開設し、今年度開催した町民人権講座のパネルや昨年度のふれあい人権作品の入賞作品、広報紙、啓発冊子などを展示しました。その他に、美浜町の地図に美浜の「いいところ」や「じまんできること」、「こんな風になったらいいな」ということを旗に書いて挿していく「わが町じまん」や人権クイズ、人権迷路などを実施しました。



▼町民人権講座紹介



▲昨年度入賞作品



▲会場の様子です

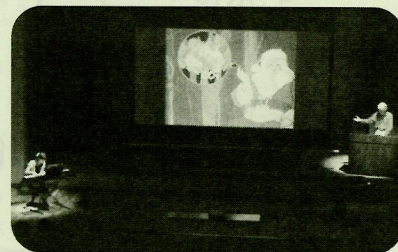
なびあすの一番奥の部屋で、どれだけの人が来てくれるか心配しましたが、たくさんの方に来ていただき、人権協の取り組みについて広く知っていただけたのではないかと思います。

また、人権協コーナーを訪れる皆さんが、みんなで一つのものを作り上げる中で、人とのつながりや手作りのあたたかみを感じていただければと思っています。

### 第3回町民人権講座 7月8日(日) 13:30～ はあとぴあ 電影紙芝居「季節はずれのサンタクロース」 上映：地球環境保護NPOレインボーさん

映像に生の朗読と音楽をあわせた幻想的なひとときでした。環境問題をテーマにした内容で、人と人が助け合い、つながり合うことの大切さをサンタクロースが語りかけてくれるのが印象的でした。

また、最後に上映された「世界中からのメッセージ」では、世界各国から被災した方々へのたくさんのメッセージが流れ、特に貧しい暮らしの中でも一生懸命日本を応援してくれた子どもたちの姿には、本当に胸が熱くなりました。



子どもといっしょに参加できてよかったです。こんな人権講座を毎年1回はして下さるといいと思いました。自然のありがたさがとても感じられる時間でした。どんな時にも笑顔のサンタクロースさんに感激しました。

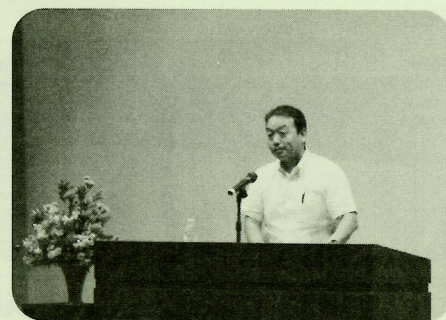
自然の大切さや恐ろしさを学ぶことができた。また、人は人に支えられているだけではなく、自然にも支えられていることを強く感じた。

電影紙芝居はじめて見ましたが、内容も含めてとてもすばらしかったです。もっと多くの子どもたちにも見せてやりたかったと思いました。

### 第4回町民人権講座 9月14日(金) 19:30～ はあとぴあ 「絆の回復 ～人は独りでは生きていけない～」

講師：奥田知志さんおくだともし (NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長)

NHK総合「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演された奥田先生の講演でした。震災以後、「絆」という言葉があふれていますが、ホームレス支援だけでなく、震災への支援についてもお話いただき、「絆の相互性(助けられる・助ける)」という言葉から「絆」について改めて考え直すことができました。また、ご自身の経験から、「助けて」と言うことの大切さについても語っていただきました。



私たちが元気に前向きに過ごしていくために、自尊感情、自己有用感が必要なのだと改めて気付かされました。支援しようと思うとき、ありがとうを強いてしまわないよう、自立の手助けが出来たらと思います。生きることにつながる気がします。

よく聞く言葉ですが、奥田先生を通して、一つ一つの言葉の意味、つながりがよく分かり、心の深いところに感じ入るお話でした。

助けてと言えた日が助かった日、とっても身にしみました。助ける、助けられる、両方ともあって、人はまっすぐ生きられるという言葉、とっても納得できました。

絆という言葉は、今まで単純に良い言葉だと思っていたが、絆というのは難しいことだと感じ、いろいろと考えさせられた。

私は視覚に障がいがあります。小学生の頃から視野が狭く、みんなと別の授業を受けることもありましたが、それでも一緒に勉強したいと思い、進んだ一般の中学校では、ひどいじめも受けました。毎日つらい思いを背負いながらも、「まけたらあかん」と、人より早く学校へ行き、自分ができることは自分でがんばりました。

しかし、勉強や日常生活において、みんなと一緒に高校まであがることはできず、盲学校へ通うことになりました。それが、私にとっての転機でもあったのかもしれない。盲学校では、私よりはるかに視力の弱い人がたくさんいて、私がある人たちの手助けをすることができたのです。今まで、人より「できない」ことばかり目の当たりにしてきた分、「できる」ことが私にとって何よりの喜びとなりました。

それからは、本来の明るさを取り戻し、社会に出る楽しみを覚えました。

普段生活しているなかで、助けられることが多いです。でも、私に助けられている人もいるんだ、自分にできることをすればいいと思いがながら笑顔で忘れず生活しています。

人は、いつ障がいを持つかわかりません。生まれつきの人もいますが、病気や事故で身体の自由が奪われることもあるのです。「障がい」に目を向けず「私」を感じ取ってもらえたらうれしいです。

こうして今、明るく暮らせていけるのは、小さい頃から私を隠さず外にどんどん出してくれた母のおかげと感謝しています。障がいは隠すものではないと思います。それはその人の「個性」なのだから。



郷市 山本美智子

## 第5回町民人権講座 10月18日(木) 19:30～ はあとぴあ 「いじめられっ子から世界チャンピオンへ」

ないとうだいすけ

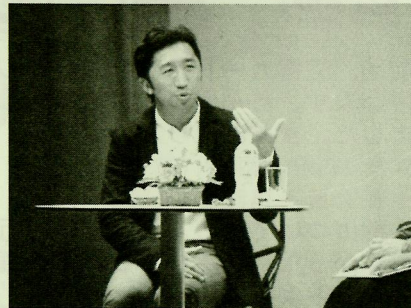
講師：内藤大助さん（元WBC世界フライ級王者）

みなさんご存じの元世界チャンピオン内藤大介さんを美浜町にお迎えすることができました。

内藤さんはテレビで見るとおりの素朴で優しいお人柄で、誰もが親しみを持ち、笑顔でお話をお聞きすることができました。

内藤さんのいじめられた経験やそれを乗り越えた精神的な成長について、体験に基づいて分かりやすく話していただき、自信を持つことで心も成長することや人の痛みを知ることの大切さなど、多くのことについて考えることができました。

また、本講座に先立ち、午後2時から美浜中学校でも全校生徒に向けてご講演いただきました。質問コーナーでは生徒からたくさんの質問が出てきましたが、その一つ一つに丁寧に答えていただき、内容だけでなく、中学生にとって心に残る講演会になりました。



見たとおりの人柄の方で、とても楽しく笑わせていただきました。子育てにもヒントになる話もあり、とても良かったです。子どもにも話をしてあげたいです。

心の痛み、たくさんの痛みを知っておられるからこそその今のお人柄と思いました。

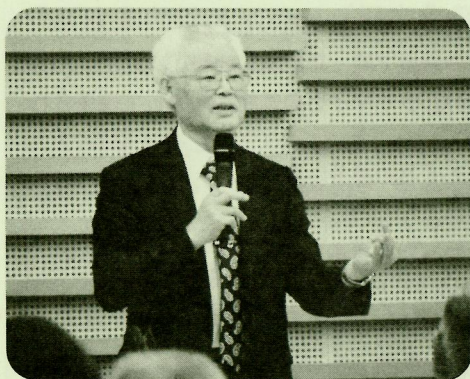
世界チャンピオンとしてのおごりや、いばったところが少しもないところが親しまれるところだと思いました。

ボクシングというスポーツに出会えたことで、いじめを克服できたということでした。精神的に強くなり、痛みの分かる人間になれたからこそ、チャンピオンになれたのだと思います。

## 第6回町民人権講座 11月14日(水) 19:30～ なびあす 「老いと死から逃げない生き方」

なかむらじんいち

講師：中村仁一さん（老人ホーム「同和園」付属診療所 所長）



中村仁一さんをお迎えして、「老い」と「死」について明るく前向きに考えるお話をさせていただきました。

- 「老い」にはこだわらず・逆らわず寄り添うこと。
- 医療者はお助けマン、薬はお助け物資、器械はお助けマシーン。  
治す主役は本人の「自然治癒力」
- 「もう…しかできない」ではなく「まだ…できる」。
- 「健康」に振り回されない。
- 「病」にはとらわれず連れ添う。
- 「医療」の「できるだけの手を尽くす」は「できる限り苦しめる」と同義。

などなど目からウロコのキーワードがたくさんありました。

中村さんは、「死」を具体的に考えるために、段ボール製の棺桶を購入し、そこに入って「今死ぬとしたらやり残していることは何か?」「これからの生き方は?」「死に方は?」と考えるそうです。

今回の講演から、老・病・死をこわいものとおそれずにしっかりと受け止め、「今」をしっかり生きることの大切さを教えていただきました。

死を意識して生きる。このことは大人とか高齢者のことではなく、小学生・中学生の頃から必要なことと思います。くいのない人生になるよう生きることにつながる気がします。

老の体に気持ちを合わせる生き方を知り、この先の生活に安らぎを感じられました。

母を自宅で看取りたいと思い、介護の日々ですが、大変勇気をいただきました。

母の最期を自宅で看取りました。本当に痛がりもせず、おだやかな死でした。とても良かったなと思っています。自分も母のような死に方をしたいと思いました。

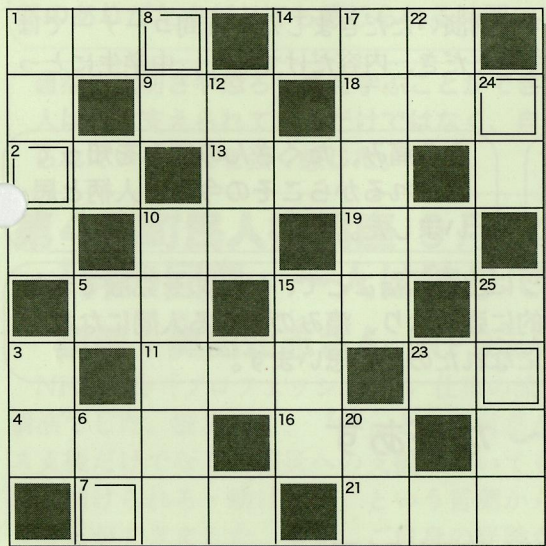
# こえ 声 こえ

「ふれあい」第48号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので紹介します。

○前回、図書カードとうせんしました。ありがとうございます。こんかいも家族みんなでがんばってときました。またあたりたいです。【麻生Sさん】

○人権についてこのような活動が行われていたのを知らなかった。小さいことから人権について少しでも考えてみようと思った。【佐田Mさん】

○今、学校でのいじめ問題がワイドショー等で取り上げられていますね。私も中学生時代、いじめにあい、すごくつらく悩んだ時期をすごした体験者の一人でもあります。世の中からいじめをなくす、いじめのない世の中になってほしいし、この美浜町でもいじめがどこか見えない所でおこっているかもしれません。そういった問題にあたたかい手をのばしてあげていじめを回避する、またいじめのない美浜町にしてほしいとおもいます。【早瀬Kさん】



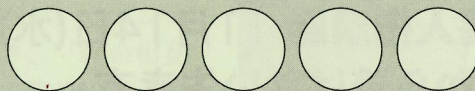
## ■応募方法■

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。  
〒919-1141 美浜町郷市29-3 美浜町生涯学習課内 人権協事務局
- 〆切は、平成25年1月31日(木)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「やすらぎ」でした。当選者は次の皆様でした。おめでとうございます。

1. 高木 美里さん (新庄)
2. 嶋田恵梨花さん (麻生)
3. 川崎 孝一さん (早瀬)
4. 田邊 清之さん (気山)
5. 高木 美佳さん (新庄)

## 人権クロスワードパズル

二重わくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



### よこのカギ

1.  $-+九+九=?$
2. ○○手、○○栓、○○通り。
4. 舵や竜骨のない小舟。オリンピックの種目にもあります。
5. 海鷗魚と書く平らな魚。尾の部分に毒があることも…
7. 「ぬかに釘」と同じ意味の諺。「○○○に腕押し」。
9. 大正から昭和にかけて流行った「無料」「タダ」を意味する言葉。
10. 旧暦の7月のこと。○○月。
11. 車のナンバープレートで大阪府のものは「大阪」と「和泉」と「堺」と？。
13. 建築物や工作物が無い状態の宅地や工業用地のこと。
14. 殿-尸-共。
15. 還暦⇒○○⇒傘寿⇒卒寿。
16. 介護や看護など世話すること。アフター○○、デイ○○など。
18. 隕石や流星のこと。
19. 人は関わる相手や環境によって、良くも悪くもなるという意味の諺「○○に交われれば赤くなる」。
21. 世の中のありさまや社会の様子のこと。
23. ものの端やフチのこと。

### たてのカギ

1. 一日中のこと。終日と書きます。
3. それ以外を指す言葉。または他所のこと。
6. 麻や葛などの植物繊維で織った織物の総称。
8. ドイツ、ベルギー、ジャマイカの国旗に共通して使用されている色は？。
10. 演劇などの締めくくりの部分。終章。
12. 紙に強く石に弱い。
15. 大きかったり多かったりするものを小さく分けること。
17. 知ってると役に立つちょっとした知識のこと。
20. 体の温度調節のために出てくる液体。
22. 「このカギの答え」は「このカギの答え」の向きに書きます。
24. 十干の2番目。「きのと」ともいう。
25. 数の単位で那由他、不可思議ときて次の単位。○○○○大数。

## 編集後記

プロ野球の守備の名手、ヤクルトの宮本選手が、捕球や送球でミスを繰り返す選手への指導で、「守備は手じゃ無い、すべて足、足の運び」と、徹底的にフットワークを鍛えて、立ち直らせた話がある。捕るのも投げるのも手の技術かと思うが、実は足の運びが鍵をにぎるといふ。

この広報の表紙の左上にもあるが、人権協の大切なテーマの一つに「つながり」がある。つながりという手をイメージするが、「歩み寄り」という言葉もあるように、まずは足を運ぶことから始めるのだらう。そして、手をつなぐ。

F Mラジオで流れていた話。「人が二足歩行になったのは、頭が重くなって支えられなくなったとか、長い距離を移動するためにエネルギー消費を抑えるとか、いくつもあるけど、誰かと手をつなぎたくて、つなぎたくて、二足歩行になったんだとしたらいいなあって思う。」

もし、そうなら、「つながり」って、神様がくれたプレゼントなのかもしれませんね。